

委員長 五十嵐 雄祐
副委員長 弘田 亨一

1) 建築展・講演会・活動

・6/30 AIJ, JIA ジョイントセミナー「キャンパスの再構築」

会場：内田洋行 ユビキタス協創広場 U-cala

講師：佐藤孝氏

・1/15 「表現空間論」建築の未来のために

会場：J I A 北海道支部事務局

講師：鈴木隆之氏

2017年度の活動報告

本年度は昨年度と同様に、広報担当、システム担当、出版担当に分かれての活動をしてきました。

出版担当では、情報発信の一手段として、建築家カタログ[住宅編]VOL.6「北海道の建築家と家をつくる」を建築展に合わせて出版しました。内容は、前号までから大幅なページ増とコンテンツの充実化を図り、また道外への発信を含め、参加建築家48名・発行部数2,000部となり、好評発売中です。

支部ホームページも引き続き、随時マイナーチェンジをしておりますので、皆様からお気づきの点、ご意見等も頂戴できれば幸いです。

- 委員長 : 石塚和彦
- 広報担当 : 岡田順博
- HP システム担当 : 大塚達也
- 出版担当 : 石塚和彦

カタログ出版委員：五十嵐雄祐、大杉崇、岡田順博、櫻井百子、弘田亨一、前川尚治

—— 総務委員会 ——

委員長	鷺見 健二
副委員長	石塚 和彦
副委員長	石田 純枝
入退会審査	小杉 朋希
本部 FS 委員	石田 純枝

1) 2017年度通常総会

■ 2017年5月12日（金） 札幌ビューホテル大通公園

支部総会： 議案につき可決承認された。

総会員数155名 総会出席者 97名（内、書面表決・委任状46名）

■ 表彰式： 学生卒業設計コンクール

■ 意見交換会： 賛助会員及び来賓を交えて意見交換会を開催。

2) 支部総務委員会

■ 各事業への協力。本年度は住宅カタログの発刊、建築大賞及び建築展と大きな事業の予算等（収入・支出）について活動を行った。また、来年度（2018年度）以降の事業企画重視の新体制の準備に向けて事業予算案策定等の活動を行った。

■ 2018年度予算案策定。

■ 入退会に関する事務手続き。

■ 北海道事業：高校生建築デザインコンクールへの実施運営委員会への参加。
北海道・一社）北海道建築士事務所協会・一社）北海道建築士会 との共催。

■ 事業委員会教育委員会主導のジュニアオープンデスクへの協力。

4) 本部総務委員 遠藤支部長担当

—— 職能業務委員会 ——

委員長 菅原秀見
副委員長 中薮則喜
副委員長 斎藤文彦

本委員会では、

- ① 北海道建築設計会議
 - ② その他、発注団体、関係団体による会議
- についての活動を行った。

何れも業務環境の向上と他団体との情報共有を目的としている。

- ① 北海道建築設計会議（建築設計関連の 11 団体(10 団体+新聞社)で構成している北海道独自の会議)、に毎月の参加活動を実施している。昨年度は計 10 回開催された。2003 年に発足し、各団体の担当者による情報交換の場として定着している。今年度は、残業問題や、若手技術者の不足、女性の活躍などの労働環境についての議題についての議論が多かった。
- ② その他関係団体による会議：北海道開発局、北海道、札幌市、建築士会、建築士事務所協会と JIA による公共建築設計懇談会幹事会に出席し、公共の取り組みや業務上の課題について確認・協議した。また、全道確認円滑化対策連絡協議会及び全道建築行政連絡会議、全道住宅建築物耐震改修促進会議への対応も行い、手続き関係における最新情報を確認した。

委員会としては、今後も建築家の職能の確立と業務品質の向上を目指し活動していく。

—— 苦情対応・職責委員会 ——

委員長 中原 隆一

2017年度に該当する案件はありませんでした。

—— 支部 規約委員会 ——

委員長 中原 隆一

2017年度に支部規約に関する決定事項はありませんでした。

委員長：大田司（本部委員） 副委員長：山之内 裕一
委員：中藪 則喜、澤 康昌、岡田順博

■ 本部・資格制度実務委員会（WEB会議・本部委員会）

「正会員は全員登録建築家に」という優遇キャンペーンを終え 1 年を経過した年となりました。全国では未更新者の数が新規や再登録者の数を上回り、全体数が減っています。北海道は未申請 1 名で更新率 93.8%、新規で 1 名で全体数は確保する結果となっています。今後の検討事項として、下記を予定しています。

- ・正会員の登録建築家への方向付け
- ・一般の人々への『登録建築家』浸透方法の検討、ブランディング等
- ・登録建築家のメリット開発、コンペ・プロポの優遇措置等 J5 含めた行政へのツール開発

■ 実務訓練部会

前年度同様、実質的な活動は行われておりませんが、この資格制度の根幹となる部分です。今後の対応は本部の委員会を通して、制度の簡略化（試験の実施や単位数の緩和等）等継続検討していくこととなります。

■ 登録建築家更新・再登録審査

2017 年 3 月に、登録建築家の更新・再登録の審査を行いました。

今回の更新者は北海道支部全体で 15 名です。内訳は、細則 9 条 1 による更新者 11 名、同 9 条 3 による更新者 4 名です。

2 月 15 日、申請内容の調査を支部資格制度実務委員会で行い、支部認定評議会による審査を 3 月 6 日に行いました。評議会では、15 名全員の更新要件審査を行い、規定の更新要件を満たしていると判断し、本部認定評議会へ審査結果を送付しました。

その結果 3 月 31 日の本部認定評議会で 15 名全員の更新と再登録が認定されました。

■ 登録建築家の新規認定審査

今回は、新規申請が 1 件ありました。支部資格委員会および支部認定評議会にて提出された資料および細則 8 条 1 に基づき、新規認定相当と認め本部認定評議会へ審査結果を送付しました。その結果 3 月 31 日の本部認定評議会で 1 名の新規登録が認定されました。

■ 評議員からの意見

支部認定評議会では評議員の方からの下記のような主要な意見をいただきました。

- ・制度のスリム化について、更新等の機械的に判断できる部分は、関東等の多くの登録建築家を抱える部署のことも考えると事務作業となる部分が大きいのでぜひ進めるべき。
- ・更新を続けた時に審査内容に反しない仕事が行われているかの判断ができない。
細則 8 条 1 項の『建築や都市の文化的な水準を高め、潤いのある景観や環境の形成に寄与するのに必要な資質・能力』等の確認は難しく、またその基準が不明確にならざるを得ない。
- ・登録建築家制度は、今後はやはり建築士会の一体となって動く必要があるように思う。
一度合意してスタートしてきた経緯もあるので再度押し進めてみてはどうか？
- ・登録建築家であることのメリット開発について、コンペ・プロポの資格的インセンティブは今後進めていくべきである。
- ・医師や弁護士のように、この資格ができないと仕事ができないというぐらいの縛りがないと

- このまま進んでいかないのでは？（1級建築士があれば足りるという考えがある中で）
- ・資格を取って終わりではなく、自ら進めてスキルを保つことが重要。現状のCPDのプログラムは本当にそうになっているか？（形式的になっているのでは？本来のスキルを維持するものになっているか？）
 - ・顧問弁護士ならぬ顧問建築家としての活動フィールドはあるように思う。
 - ・異業種の交流の中でお互いの知識の共有の中で仕事に繋がっていく場合もあると思う。個人レベルではなく仕組みとしてそれができないか。
 - ・登録建築家やJIAの増員については、組織設計事務所には多くの人材がいるように思う。人から誘われると必要とされているという意識も芽生えるため、声をかけていってはどうか？

以上、2017年度、支部建築家資格制度実務委員会の活動報告です。

—— 建築プロジェクト委員会 ——

委員長 前川 尚治
副委員長 大田 司

11/7 に委員会の会議開催。

他は2017年度内に、活動はありませんでした。



第二次オイルショックを迎えた1979年、北海道大学工学部教授の荒谷登（当時）は 壁：グラスウール250mm

屋根：400mm、補強コンクリートブロック造外断熱の自邸を竣工させる。それは当時も今も寒冷地北海道の暮ら

しを維持するために欠かせないエネルギーと、その獲得に翻弄され続けてきた北国の住まいに対する解決策を目指し

たものだった。現在、我が国は2020年の断熱義務化に向けてさまざまな基準や優遇策が整備されつつあるが、残念

ながら、世界的な省CO2削減の水準からみても十分とは言い難い。そんな折、竣工当時の荒谷教授の文章を紹介した

ことがきっかけで建築知識ビルダーズ誌巻頭特集の企画が持ち上がり、取材や執筆のお手伝いをさせていただく機会

をいただいた。住まいの断熱が地域社会に根付いて約30年以上が経過する北海道だが、こうした情報発信を通して

地域における新たな建築の可能性を広げて行きたい。 一社) 日本建築家協会北海道支部 環境委員会 山本亜耕

執筆に際しては

荒谷登先生、奥様の淑子さま、現在の住まい手であり先生のお弟子さんでもあるタギさん、地元編集者として、先生の著作

を手掛けた登尾さん、そして荒谷先生の文章に触れこの特集を組んでいただいた木藤編集長に心より感謝申し上げたい。

竣工から早40年経つが、現在の最新の建物でも当時の荒谷邸を凌駕するものは少ない。

2017年度の環境デザイン委員会の活動報告は、櫻井百子委員による JIA 全国大会（徳島）での環境会議エコツアーのレポートと致します。

環境デザイン委員会 委員長 堀尾浩

JIA2017 年全国大会 「環境と土着」 プレイベント

吉野川とつるぎ天空の集落エコツアー参加報告

2017年9月の JIA 全国大会に合わせて開催されたプレイベントに参加させて頂き、貴重な経験をさせて頂きましたのでここにご報告します。

9月27日（水）

■吉野川下流から中流域へ

「吉野川の洪水を抑制する知恵と豊かな土壌を生かす」

吉野川河口、田園風景、第十堰、岩津と水制、水害防備林、霞堤、広大な遊水池-善入寺島・舞中島、を垣間見ながら、吉野川の洪水とともにあったこれまでの歴史と、吉野川の第十堰、そして竹林に覆われた中洲の役割、氾濫を受け入れながらの藍の栽培で繁栄を受け継いだ歴史、デメリットな災害を受け流しながら豊かさを作る緩やかな知恵についてお話を聞きながら、次の目的地、つるぎ町へと向かった。



■吉野川から貞光川に登る

(宿泊施設美馬館「油屋」にて、チェックインし、小型バスからマイクロバスに乗り換える。)

■「天空の里、高地性集落の知恵を探る」

家賀集落、赤松集落 (貞光川上流／集落の住民、大工さんに会う。)

(半田川上流の葛城集落を訪ね、貞光川上流の集落を見学)

標高 800m の 25 度を超える急斜面で農業を営みながら暮らしている人たちがいる。と聞いて、初めは驚いた。なんでわざわざそんなところに住んでるのか。というのが率直な感想で、(そう考えると北海道もなんでわざわざ寒くて雪の多いところに住んでいるのか、と思われるだろうけれど。) しかも、北斜面の集落もあるという。

実際にそこで暮らしていた祖父の家に移住した中嶋さんや地域おこし協力隊で活動している榮さんのお話を聞きながらの道中はまさに目から鱗の連続で、大変刺激を受けた。

ご案内くださった四国支部の新居さんは、住民の方から、平野で暮らすと飢えることはあるが、山は絶対飢えない。むしろ豊かで、尾根伝いに人は昔から動き、旧家ほど山の高いところに住んでいたと聞かされたとのこと。祖谷溪は平家落人伝説等では有名ですが、西阿波地域はもっと古い時代から人は住み、郷土史家から結構中央、あるいはアジアとつながっていたと言う話もあり、私たちが既成概念でデメリットと思っていることを、そこで暮らす人たちは巧みな知恵でメリットに変えて暮らしているということが随所に見受けられ、大変感銘を受けた。



住民の手で積み上げられ、メンテナンスも住民が行なって守られてきた石積み。



集落の中には茅葺き職人がいて、吹きかえられた茅は捨てずに畑の肥料となる。人材も貴重な集落の資源。



軒先も自給自足のためには貴重な作業空間。この時は収穫した雑穀が干されていた。



つるぎ町の清流穴吹川
懇親会ではこの川の水でできた純米酒をいただいた。
川べりにはこの地域で取れる青石がたくさん落ちていた。



この斜面の上の方にある赤松集落の渡川家を尋ねる。

渡川からの眺め。まさしく天空の集落。



ごしゅういもや手作りのこんにゃくの田楽、蕎麦の実の入ったおつゆ（米が取れない集落では、蕎麦の実をお米のように扱い、蕎麦米汁と言うのだそう。）など、郷土料理で出迎えていただいた。

そのほかにも、集落の中心にあるお堂やほこらはコミュニティと祈りの場、秋になると茅場から収穫した茅を束ねて作られるコエグロは春には畑の肥料になると同時に土壌の乾燥や流失を防ぐ。手作

りの石垣の上にはハデと呼ばれる木組みがあって、日光が石積みに当たると蓄熱されて上昇気流が生まれて、ハデに干された作物が効率良く乾燥したり、伝統農業の知恵はすばらしく、またそれが美しい景観を作っている。

9月28日（木）

■脇町うだつの街並み



実際に古民家には今も住民の方々がお住まいになっていて、現代的な暮らしと上手にバランスをとりながら街並みや景観を維持されている様子がよくわかった。

低い軒下は街に開いたコミュニティスペースであり、折りたたみのベンチが作り付けられてあったり、低い軒先には短い暖簾が下げられていいスケール感の風情があった。

■国指定重要文化財 田中家住宅



吉野川のほとりの藍商の住宅で、11棟ある建物全てが国の重要文化財に指定され、住宅では全国初とのこと。吉野川のたび重なる氾濫によりなんども建て直しながら今の配置になったそう。吉野川が氾濫して逃げられなくなった時屋根に上がれば茅葺の屋根が船のように浮かんで助かるように作られている。石垣は20年かけて積み上げられたもの。建物全体で30年かかっており、50年かけて完成している。全ての建物に棟札があり、同じ棟梁によって建てられたことがわかっている。

後日談ですが、私たちが見学させていただいた後、徳島県の伝統農法が世界農業遺産に認定され、伝統農業の素晴らしさが世界に発信されることとなりました。また、喜ばしいことに、住居を見学させていただいた宮久保さんと、ご案内いただいた中嶋さんがご結婚され、限界集落ではありますが、若い力が加わって今後どのように守り育てられて行くのか、応援しながら見守っていきたいと思います。合わせて、地域おこし協力隊だった榮さんも程なく会社設立されて西阿波の素晴らしさを世界に発信されていかれることと思います。課題はたくさんあると思いますが、こうして次世代に引き継がれて行く様子も垣間見せていただいた貴重な研修となりました。（櫻井百子）

—— 保存再生委員会 ——

全国会議委員 山内 一男
委員長 山内 一男
副委員長 西澤 邦夫

全国保存再生会議は、J I Aの保存再生の取組み活動の連絡と集約することを目的に、2017年度は隔月1回のWEB会議と、9月28日のJ I A全国大会・徳島大会で全国保存再生会議を開催しました。又、J I A修復塾の協力と会員への参加の呼び掛けを行いました。

2016年のJ I A全国大会・大阪大会の全国保存再生会議記録を冊子にまとめ、CDと一緒に各支部に送付致しました。

2017年度活動報告

□16年度の9回のWEB会議と大阪での全国大会を受けて、2017年度の会議が行われました

□17年度活動報告

5月10日（第17回）、7月5日（第18回）、8月22日（第19回 欠席）、9月28日（徳島大会）、12月11日（第14回）、2月5日（第21回）、の計5回の全国保存再生会議WEB会議が開催されました。

○歴史的建築物の活用促進に向けた建築基準に関する連絡会議に篠田議長が参加し、建築基準法について意見を述べた。

○神奈川の近現代建物調査協力に参加した。次年度も継続して行う。

○修復塾修了者のネーミングの検討と組織化、修復塾のJ I Aでの位置付けが徳島大会で意見がなされた。

○J I A修復塾とヘリテージマネージャーとの「連携」の道を探ることの第一歩として、J I A全国保存再生委員会はヘリテージマネージャー全国連絡協議会の会員となった。

○ヘリテージマネージャー全国連絡協議会・京都に参加。

○9月28日J I A徳島大会にて、北海道支部の保存再生建物の現状を発表。
発表内容は別紙参照

○J I A徳島大会の全国保存再生会議記録を冊子にまとめる作業が進行中。
会議記録の概要レポートは別紙参照

○2018年度の委員改選について、原則2期4年間を確認した。

2017年度 活動報告

■まちづくり全国会議への出席

(1)第1回 JIA まちづくり全国会議 (web 会議)

2017年6月6日18:30から、各支部のまちづくり委員長11名が出席し実施された。

「良質な建築・美しい街づくりの仕組 萌芽事例シート」を各支部から提出し、その内容についての議論が中心となった。北海道支部菅沼からは、実績を問わない公募プロボ事例として、芽室町役場庁舎プロポーザルの内容を紹介した。東北支部及び九州支部からは、震災復興まちづくりの中での建築家のボランティア的な活動とそれを仕事につなげていくことの難しさについて、実践に基づいた情報交換がなされた。

(2)第2回 JIA まちづくり全国会議

2017年9月28日17:00から、四国徳島での全国大会にて全国会議が実施された。

北海道支部菅沼からは、行政とJIAとが協働して新しいまちづくりを展開している事例として、南幌町で進められているモデル住宅事業「みどり野きた住まいるヴィレッジ」プロジェクトを紹介した。各支部の全国会議委員から大きな反響があり、北海道庁から協力を依頼された経緯や、行政及び工務店との信頼関係の構築方法について、多数の質問が寄せられた。特にJIA会員がプロジェクトのアドバイザーとプレイヤーという二つの役割を分担しながら、きちんと報酬を得て新しいまちづくりに参画できている状況は注目に値する事例であり、今後も追跡していくべきとの意見があがった。

■JIA 関東支部会報誌 Bulletin への寄稿

四国大会まちづくり全国会議での報告を受け、まちづくり全国会議の連議長より、関東支部会報誌 Bulletin への寄稿を依頼された。きた住まいるヴィレッジの関係者に協力を依頼し、照井副支部長、山本亜耕氏、小倉寛征氏、3名の連名による『「きた住まいるヴィレッジ」北海道支部による行政との協働による地域住宅づくりの取り組み』というタイトルの記事を掲載いただいた。特徴ある取り組みを広く紹介するよい機会になったのではないかと思う。

—— 建築相談委員会 ——

委員長 川村 弥恵子
副委員長

2017年度内に、建築相談はありませんでした。

アーカイブス委員会

委員長 宮崎 正之

2017 年度活動報告

アーカイブスの建築家の絞り込みを JIA の前身である 1956 年発足の日本建築家協会北海道支部会員とし名簿（約 50 名）作成し今年度中に趣意書を発送しアーカイブスへのご協力をお願いする事としました。またワーキンググループを立上げフォーマットの作成について内部委員と外部協力者とで現在シュミレーション中です。アーカイブスは JIA 北海道支部に籍を置かれて活動した（現在の在籍を問わず）建築家を対象としますので現会員の建築家の皆様は貴重な設計資料（スケッチ、現場メモ等）は保存して置く事をお願い致します。

住宅部会代表世話人 大杉 崇
副代表世話人 五十嵐雄祐
副代表世話人 弘田 亨一

2017年度 第1回全国住宅部会連絡会議を7/25に行いました。

出席者：
弘田亨一
五十嵐雄祐

日時:2017年5月27日10時～12時30分
場所:沖縄県立博物館美術館 講座室

【各支部の住宅部会近況報告】

・沖縄支部 …住宅の90%がRC造。4年前坪75万だった工事費が毎年10万ぐらいずつ上昇し、昨年で坪100万となっている。このことで「住宅」離れが進んでいる。
沖縄での木造の坪単価が80～85万で、木造とRC造の単価が逆転した。
施工者や若手設計者の人材が不足。
数年前から「沖縄建築未来塾」という建築学生向けの勉強会を開催し、人材育成に努めている

る。また、小学生を対象としたワークショップにも取り組んでいる。

・九州支部 …主な活動は福岡地域会が中心。年6回「イエノコト」という市民向けのイベント開催。

(作品紹介だけではピンとこないなので、毎回テーマを設定し、土地のこと・お金のこと・法律のこと・建築業界のこと・設計のことなど具体的な内容で行っている。作品発表の場というよりは、勉強会的なイベントで、集客はチラシをメーカーショールームに置いたりすることで対応。)

月1回の例会や、設計事務所スタッフ向け勉強会も開催。独自のパンフレット制作

・四国支部 …四国の中で唯一愛媛に建築系大学が無いので、人材不足。
大学に建築学科を作るべく働きかけをしている。
またヒノキの生産が全国1位ということを活かし、ラチス状の構造面材の開発協力などを行っている。

- ・中国支部 …JIA 会員が 140 名。ほぼ 60 代で 40 代は数名。30 代はいない。
活動の魅力はどう作っていくか懸念。

活動が山陰と山陽で分かれる。業界全体にも言えることかもしれないが、墨付け大工、現場監督の不足は深刻な問題となっている。

- ・近畿支部 …住宅部会員が 106 名。内、16 名が市民会員（メーカーや一般主婦など）住宅部会のメンバーの内、世話人が 28 人おり、精力的に活動している。
また、市民会員も役職に就く。
住宅部会独自サイトがあり、活動を広めている。
建築家カタログも部会事業。

支部とは別会計。（JIA の名前は使える。）

毎月例会・住宅見学会・すまい CAFE など何かしら活動を行うようにしている。

毎年春と秋の 2 回ジュンク堂にて建築模型展を行っている。
ブランド委員会がある。

- ・東海支部 …正式名称「愛知住宅研究会」会員 53 名。内、市民会員 6 名。30 代はいない。

一般向けイベントや年 5 回のセミナーを開催。IBEC の協力も得て、環境セミナーも行い、

新省エネ法の勉強会も行っている。

会員メリットをどう作るか。

ユニオンと協同して独自の商品の企画を行い、JIA 会員になるメリットにつなげたいと考え

ている。他にも床材など住宅部会発信でのものづくりに取り組んでいる。

支部とは別会計。

- ・関東甲信越支部…住宅部会独自のサイトがある。

住宅部会費として、5000 円/年を会費としている。

頻繁にセミナーを開催。（市民向けセミナーも）セミナーについては、今後内容を公開して

いこうと考えている。

セミナーの講師は業界外からも呼ぶことが多い。

- ・東北支部 …欠席

【全国大会について（徳島大会）】

- ・メインテーマは「建築家と土着」-グローバルに生きる-
- ・各支部から集めた単なる模型展は開催する意味がないのでは。
テーマにあった模型展を開催？地域毎の違いが見えるようなものになると面白いのでは。
- ・会員向けのフォーラムを9月29日10時～開催を検討。一般向けというよりも学習・批評の場としたい。
各支部1名ずつの参加をお願いしたい。

——2017年度旭川地区会活動報告——

委員長 柳 雅人
副委員長 齊藤 弘源

- 2017/4/04 【2017年度第1回旭川地区会会議】
- 2017/4/06 赤レンガ市庁舎の図面閲覧 大矢
- 2017/4/10 「建築を永く使い続けること」展 WG会議
- 2017/4/11 【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】 WG会議
- 2017/4/14 第13回【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】旭川市の動き説明（プロポーザルの参加募集内容）、耐震診断結果報告書と竣工図の照合・検証、パブコメの検証、署名活動の状況報告など
- 2017/4/17 【2017年度第2回旭川地区会会議】運営会議 2016年度活動計画、運営体制について「建築を永く使い続けること」展開催に向けて
- 2017/4/24 赤レンガ市庁舎に関する聞き取り調査(鈴木産業) 大矢、石田
- 2017/4/25 【第1回幹事会】柳 出席
- 2017/4/28 【2017年度第3回旭川地区会会議】運営会議 支部会議の報告、2016年度決算報告、Asahikawa Schoolの予定、「建築を永く使い続けること」展の企画内容・役割分担など
- 2017/5/11 【2017年度第4回旭川地区会会議】運営会議
- 2017/5/12 【2017年度北海道支部通常総会】柳、大矢、石田、斎藤、澤村 出席
- 2017/5/17 【Asahikawa School 31「JIA新会員セミナー～東北からの学び」「北彩都あさひかわ」とは何だったのか】開催
- 2017/5/26 「建築を永く使い続けること」展 WG会議
- 2017/5/30 【第1回正副委員長会議】柳 出席
- 2017/6/01 「建築を永く使い続けること」展 設営1日目
- 2017/6/02 「建築を永く使い続けること」展 設営2日目
- 2017/6/03 「建築を永く使い続けること」展 開催 初日
- 2017/6/13 旭川地区会 HP 運営会議
- 2017/6/14 【Asahikawa School 32「建築への憧憬」】開催
- 2017/6/16 「旭川市総合庁舎構造部材の強度の検証に関する要望書」提出
- 2017/6/26 JIA建築展2017トークセミナー企画会議
- 2017/6/28 【第2回正副委員長会議】柳・石田出席予定していたがJR運休により欠席
- 2017/7/03 「建築を永く使い続けること」展 撤収
- 2017/7/05 旭川市庁舎プロポーザルコンペ公開審査 傍聴 大矢、澤村、石田
- 2017/7/10 JIA建築展2017トークセミナー企画会議
- 2017/7/11 旭川地区会懇親会開催
- 2017/7/12 【Asahikawa School 33「断熱材 JIS規格の新旧、光触媒技術と建材への活用について」】開催
- 2017/7/15 JIA建築展2017トークセミナー企画会議
- 2017/7/20 JIA建築展2017会場設営
- 2017/7/23 JIA建築展2017トークセミナー「建築家とまちづくり 旭川の過去・現在そして未来」 参加
- 2017/7/25 【第2回幹事会】石田・柳 出席
- 2017/8/01 旭川地区会 HP 運営会議
- 2017/8/30 【第3回正副委員長会議】石田・柳 出席
- 2017/9/13 【Asahikawa School 34「旭川地区会会員の発表会」】開催
- 2017/9/14 赤レンガ市庁舎柱一部はつり試験現地調査

- 2017/9/22 【2017年度第5回旭川地区会会議】運営会議
- 2017/9/26 【2017年度第4回正副委員長会議】石田 出席
- 2017/9/27 【Asahikawa School 35「旭川地区会会員の発表会」】開催
- 2017/10/11 【Asahikawa School 36「旭川地区会会員の発表会」】開催
- 2017/10/16 赤レンガ市庁舎に関する聞き取り調査(北海道建築指導課) 大矢、石田
- 2017/10/17 第14回【赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会】現況報告、今後の活動方針について
- 2017/10/24 【第3回幹事会】石田・柳 出席、同日函館、釧路地区と巡回展打合せ
- 2017/11/21 第1回「西神楽田園居住のランドデザイン検討に向けたワークショップ」 齋藤、澤村、参加
- 2017/11/28 【2017年度第5回正副委員長会議】石田・柳 出席
- 2017/11/29 【Asahikawa School 37「バーチャル工場見学、進化を続ける亜鉛系メッキ鋼板」】開催
- 2017/11/30 第2回「西神楽田園居住のランドデザイン検討に向けたワークショップ」
大矢、齋藤、澤村、参加
- 2017/12/11 【2017年度第6回旭川地区会会議】運営会議
- 2017/12/13 【2017年度北海道支部忘年会】齊藤 参加
- 2017/12/15 第3回「西神楽田園居住のランドデザイン検討に向けたワークショップ」
大野、村上、齋藤、澤村、参加
- 2017/12/28 【2017年度旭川地区会忘年会】実施
- 2018/1/30 【第4回幹事会】石田・柳 出席
- 2018/2/05 【2017年度第7回旭川地区会会議】北海道建築展巡回展 2018 旭川地区企画会議
- 2018/2/15 北海道建築展巡回展 2018 旭川地区グループ会議
- 2018/2/24 西神楽田園居住シンポジウム 大矢、柳参加
- 2018/2/27 北海道建築展巡回展 2018 旭川地区グループ会議
- 2018/3/02 【第6回正副委員長会議】石田・柳出席予定していたが JR 運休のため欠席
- 2018/3/12 【2017年度第8回旭川地区会会議】北海道建築展巡回展 2018 旭川地区企画会議
- 2018/3/19 「市庁舎と旭川の未来を考える市民連絡会」との連携
旭川市新庁舎建設計画に対する意見交換会 大矢、北島、柳 参加
- 2018/3/29 北海道建築展巡回展 2018 函館・釧路・帯広・旭川 合同会議開催 石田 出席
- 2018/3/29 【2017年度第5回正副委員長会議】石田 出席
- 2018/3/30 【2017年度第9回旭川地区会会議】北海道建築展巡回展 2018 旭川地区企画会議、旭川市庁舎
についての情報交換「市庁舎と旭川の未来を考える市民連絡会」との連携、署名活動の報告など

※ 随時

旭川地区会 HP の管理運営

「赤レンガ市庁舎を活かしたシビックセンターを考える会」FB の管理運営

—— 道東地区 ——

委員長 眞壁 喜男
副委員長 小野寺 一彦
副委員長 石井 孝行

- 2017/ 4/25 第一回幹事会 眞壁・小野寺出席
- 2017/ 5/30 第一回正副委員長会議 眞壁出席
- 2017/ 6/28 第二回正副委員長会議 眞壁出席
- 2017/ 7/20～7/23 JIA 北海道建築展 小野寺・石井・高橋・眞壁参加
- 2017/ 7/31～8/4 JIA 北海道支部「北のジュニアオープンデスク」
くりえいと創 釧路工業高等学校建築科 学生 5 名研修
- 2017/ 8/30 第三回正副委員長会議 眞壁出席
- 2017/ 9/28～9/30 JIA 建築家大会 2017 四国 眞壁参加
- 2017/10/13 建築士事務所協会釧路支部 50 周年記念事業
「建築家 田根 剛 記念講演」協力
- 2017/10/24 第三回幹事会・巡回展地区会会議 眞壁出席
- 2017/10/26 北海鋼機主催セミナー「進化を続ける亜鉛めっき系鋼板」釧路開催
- 2017/10/27 北海鋼機主催セミナー「進化を続ける亜鉛めっき系鋼板」帯広開催
- 2017/11/ 2 JIA 北海道支部法人協力会主催
第四回「正会員事務所スタッフの方向け勉強会」5 名参加
- 2017/11/28 第五回正副委員長会議 眞壁出席
- 2018/ 1/18 JIA 北海道支部新年交歓会 眞壁出席
- 2018/ 3/29 第七回正副委員長会議 眞壁出席

----函館地区----

委員長 水谷哲大

副委員長 川嶋紀夫

2017年4月25日 JIA 北海道支部会議 第1回幹事会 水谷出席

2017年5月30日 JIA 北海道支部会議 第1回正副会議 水谷出席

2017年6月2日 函館地区会議 第1回建築展2017 打ち合わせ

澄、米山、山内、小岩、川嶋、小澤、水谷

2017年6月28日 JIA 北海道支部会議 第2回正副会議 水谷出席

2017年7月23日 建築展2017 水谷参加

2017年7月25日 JIA 北海道支部会議 第2回幹事会 水谷出席

2017年8月30日 JIA 北海道支部会議 第3回正副会議 水谷出席

2017年9月26日 JIA 北海道支部会議 第4回正副会議 水谷出席

2017年10月24日 JIA 北海道支部会議 第3回幹事会 水谷出席

2018年1月30日 JIA 北海道支部会議 第4回幹事会 水谷出席

2018年2月8日 函館地区会議 第1回巡回展打ち合わせ

澄、米山、山内、小岩、川嶋、水谷

—— 第1回 J I A 北海道建築大賞 2016 ——

実行委員：遠藤 小西 小杉 岡田 鈴木 小倉 名古屋 五十嵐 大杉

審査委員長 飯田善彦氏 株式会社飯田善彦建築工房

審査員 小篠隆生氏 北海道大学准教授

審査員 磯 達雄氏 建築ジャーナリスト

4/14 チカホにて公開1次審査が行われました。

応募作品は29作品

第1回 JIA 北海道建築大賞の審査員は、2017年6月3日・4・5日の3日間にわたって、2次審査を通過した全6作品の現地審査にあたりました。



現地審査後下記賞が決定しました。

大賞 「ときわの家」 鈴木 理 氏
審査員特別賞 「Shimokawa Blanc」 小倉 寛征 氏
奨励賞 「House in shinkawa」 高木 貴間 氏

7/22 北海道建築展（チカホ）にて表彰及び受賞者と審査員によるトークイベントが行われました。



委員長 赤坂真一郎
副委員長 保科文紀
副委員長 前川尚治

1) 建築展 2017

● 開催日程

- ・ 2017年7月21日(日)～7月23日(日)の3日間
(搬入20日(木)／搬出23日(最終日終了後))

● 会場

- ・ 札幌駅前地下歩行空間「チ・カ・ホ」 北3条(キタサン) 広場および隣接するエリア(キタサンの斜め向かい(東側)を希望)の2会場。会員企画はキタサン広場(メイン会場)、協力会企画などを隣接する会場にて。

● テーマ・目的

- ・ 建築家の職能、社会への貢献を多くの市民に認知してもらう
- ・ 公益性を持った JIA の活動紹介
- ・ 住宅だけではない建築家の幅広い設計活動をアピール
- ・ 建築家に依頼する意味、メリットを多くの人に理解してもらう

● コンテンツ

別紙「実際に制作したイベント案内広告(リーフレット)」を参照下さい。

● 予算組み

別紙参照下さい

2) 建築展の今後の予定

- ・ 2018年度に、建築展 2017 巡回展を北海道内にて開催予定(準備中)
- ・ 開催地は函館、旭川、道東の予定

第4回北海鋼機デザインアワードの開催

第4回北海鋼機デザインアワードの応募と審査を開始しました。

審査委員長に山田良准教授（札幌市立大学デザイン学部）、審査委員に遠藤謙一良氏（（公社）日本建築家協会北海道支部長）、岩城治夫氏（北海鋼機株式会社代表取締役社長）、洞内俊氏（北海道板金工業組合理事長）、本井和彦氏（（株）竹中工務店北海道支店設計グループ長）、照井康穂氏（（株）照井康穂建築設計事務所代表取締役）に就任いただき、新しい審査体制での取り組みとなっています。

2017年5月より準備会を開始、応募要項やスケジュールを検討し、9月に応募開始いたしました。12月には審査委員による審査会を開催し審査の具体的基準や進め方について協議いただきました。2018年2月、提出された作品パネル（A1サイズ）による1次審査会を開催し、応募28作品から1次審査通過の8作品が選定されました。今後、4月に予定される2次審査（現地審査とヒアリング）を経て1次審査通過8作品から最終的な賞の決定がなされる予定です。

今回から審査会の様子を「北海鋼機デザイナーアワードNEWS」という形で随時公開しています。過去の審査会での議論の中に貴重な意見や指摘、設計へのヒントがあったため、議論自体を多くの会員に共有していただく手段として試みるものです。ご意見いただけると幸いです。

最後になりますが、第4回北海鋼機デザインアワードの開催にあたり、北海鋼機株式会社からの多大のご支援をいただいていることを報告し、2017年度の活動報告といたします。

第8回「J I A テスクチャレンジ設計コンペ」のご報告

私たち北海道支部と全国に独創的な外断熱工法を提案する(株)テスクが毎年共同で主催している環境型設計競技(コンペ)が2017年で第8回目を迎えました。J I A北海道支部の主催するコンペの中でも、毎年時流の風を捉えた社会性の高いテーマ設定が特色で、「設計者の環境的感性を育てると共に、その豊かな創造力で次世代における建築の価値を広く問う」ことを目的として始まり、続いてきました。このコンペは、長らく分離して教えられ位置づけられてきた「意匠」と「環境」を融合した視点で建築を捉え直し、問題の解決を図ることを基本としています。最近の参加者の傾向として意匠と環境を選考する学生同士の混成チームや緻密なフィールドワークを元に提案のリアリティーを高めるスタイルや、意匠系の頭だけでは足りない困難さにあえて挑戦する学生さんたちも増えて来ました。

おかげさまで、年々応募、登録数共に増加して来ていて、建築に関わる方々にも知名度が上がって来た実感しています。次回第9回に向けてさらなる盛り上がりを期待しながら、実行委員一同、審査員の方々と頑張っているところです。

このコンペの今後の課題として、北海道に籍がなくても参加できるように要項を変更しましたが、道外の参加数が伸びなかったことと、参加資格を学生に限らず広く募集しているのですが、近年学生コンペと思い込んでいる方々が多く、社会人の参加も強く望まれるところです。

1. テーマを読み解くヒント「座談会」

私たちが毎回、議論を重ねて掲げるテーマはいつも特徴的で、北国に根付く環境的な思考」を大切にしているのですが、参加者さんには伝わりづらい部分もあり、私たちの意図が少しでも伝わって、テーマを読み解くヒントになればということで、審査員の方々にご足労いただき、「座談会」を開催しました。内容はわかりやすくまとめ、募集要項と一緒にFacebookページにアップされています。



座談会の模様

2. 次回参加の動機づけに「一言コメント」

ずっと、こだわりの公開審査を行なって来ましたが、応募してくださる方の参加を促すことと、2次、3次選考には残らなかったけれど、審査員の人はこんな風に見てくれたんだ。ということをぜひお伝えして、次回参加への動機づけになるような「一言コメント」を公開審査当日に会場に掲示される作品につけています。中には厳しい一言もあり、叱咤激励の一言あり、1作品に必ず2人の審査員がコメントを寄せるように手分けして進めています。



各作品の上部に審査員2名からの一言コメント

3. 2次審査制から3次審査制に

おかげさまで、年々応募作品が増え、今回は登録76チーム、応募62作品となりました。これまで、1次、2次と公開審査で行なって来ましたが、限られた時間の中ではなかなか審査しきれない状況になって来ました。充実した審査を公開できるように、非公開の1次審査を事前に行い、それを通過した15作品でプレゼンの時間を設ける2次審査で7～8作品に絞り込んだ上でのディスカッションの3次審査という3段階審査に変更しました。

テーマ：『水のうつろいを活かした空間』

水は私たちにとって命をつなぐ上で欠かせないものである。中でも北国は水のさまざまな表情に日々接する機会に恵まれた地域とあってよい。しんと降る音のない世界、雪の輝き・・・時に水は液体から気体へまた固体へと自在に姿を変えながら豊かな四季を作る。この他にも水の有するさまざまな性質を発見し引き出しながら私たちは生きてきた。今回はそんな水を感じられる楽しい空間を創造してほしい。

詳しくはコンペ専用FBで <https://www.facebook.com/Jiatesukucompe>



公開審査会場の様子

～今後の展開

今年も第9回の応募登録がはじまりました。
日程も周知がはかやすい時期にということで、前回とほぼ同じで5/22の作品提出締め切りで、1次非公開審査を6月に行い、7/22に公開審査を行いますので、多くの方に見ていただけたらと思っております。
今回のテーマは、『冬の光と過ごす空間』です。
実は、テーマで直接冬という季節に絞ったのは初めてです。
座談会の模様もアップされていますので、ぜひご一読いただき、また、多くの方に広めていただければ幸いです。

第9回 JIA・テスクチャレンジ設計コンペ

CHALLENGE
COMPTION

テーマ「冬の光と過ごす空間」

登録締切日 : 2018年5月10日 (木)
作品提出締切 : 2018年5月22日 (火)
1次審査(非公開) : 2018年6月 5日 (火)
1次審査結果発表 : 2018年6月 6日 (水)
公開審査 : 2018年7月22日 (日) 札幌駅前通地下広場「ドオリHIROBA」

応募に関する詳細は公式フェイスブックをご確認ください。
<http://www.facebook.com/jiatusukompe>

審査委員長: 菊田 弘輝 北海道大学大学院工学研究院 助教 博士(工学)
審査委員: 魚住 昌広 北海道科学大学 工学部 建築学科 准教授
下村 憲一 株式会社建築設計 代表取締役
小倉 寛征 株式会社エニエーテックインフォスーソリューションズ 代表取締役
丹 英明 株式会社テスク 代表取締役

主催: 公益社団法人 日本建築家協会北海道支部
主催: 株式会社 テスク

2018年4月2日 JIA テスクチャレンジ設計コンペ実行委員長 櫻井 百子

1) JIA 全国学生卒業設計コンクール 2017

毎月のWEB会議を行ない、全国JIAの担当者の協力のもと自主費用により、新宿アイランドタワーBF1F・アクアプラザにおいてJIA全国学生卒業設計コンクール2017を開催致しました。

本年は全国から52作品の出席。北海道支部からは、八木悠君、伊藤拓海君、羽田崇人君の3名を推薦。そのうち伊藤君の作品が1次審査通過。八木君は3次審査まで進んだものの残念ながら入賞に至りませんでした。

各支部、地域会から選出された全国の作品を前に審査員である建築家、各支部地域会担当者、学生達が真剣な議論と評価を繰り返す本コンクールでの経験は、参加した学生達の挑戦であったことと同時に、大きな経験となって今後活かされるものと思っております。

また、例年多くの会員から事業協力、広告協賛をいただいておりますことをご報告致します。

(コンクール概要・結果)

日時:2017年6月23日(金)搬入、24日(土)公開審査、講評、表彰、懇親会、25日(日)展示会、作品搬出

会場 :新宿アイランド南棟 B1F アクアプラザ

審査委員:青木淳(審査委員長)、高橋晶子、平賀達也、名和研二、中山英之(敬称略)

受賞者 :金賞 木下美佳(大阪大学)、銀賞 甲斐貴大(東京芸術大学)、銅賞 杉山美沙(日本大学)

審査委員特別賞 河鱒広晃(東京理科大学)、近藤弘起(東京理科大学)、鶴田敬祐(九州大学)、成潜魏(日本大学)、大吉真由(崇城大学)

北海道からの出席者(JIA北海道支部学生卒業設計コンクール2017の受賞者)

八木悠(北海学園大学/2次審査通過)、伊藤拓海(北海道大学/1次審査通過)、羽田崇人(北海道大学)

2) JIA 北海道支部学生卒業設計コンクール 2018

本年は、会場を北海道芸術デザイン専門学校本校1階ホールにて開催。1日目は公開審査、2日目は作品展示を行いました。また、金属工芸家・彫刻家の藤沢氏に審査委員として他分野からの視点で協力いただきました。また1日目の審査終了後、講評会として出展者を含めた意見交換・歓談の時間を設けました。

(コンクール概要・結果)

日時 :2018年3月13日(火)搬入・公開審査、14日(水)展示・搬出

会場 :北海道芸術デザイン専門学校本校1階ホール

審査委員:

宮下勇(審査委員長、JIA会員)、小倉寛征(JIA会員)、藤沢レオ(金属工芸家、彫刻家)(敬称略)

参加作品数 15 作品(5大学、1専門学校)

金賞 刻の縫目(ときのぬいめ) 白戸 採希(北海道科学大学)

銀賞 ソラ・インコグニート 山口 大翔(北海道大学)

銅賞 宿存する隙(しゆくそんスルすき) 伊阪 遼(北海道大学)

審査委員特別賞

(宮下賞)漁業都市の船出 道南江差における市場再生システム

中村 悠佑(北海道芸術デザイン専門学校)

(小倉賞)書海溝

福山 将斗(室蘭工業大学) ※次点

(藤沢賞)風景と生きる

岩木 智穂(北海学園大学)

金・銀・銅賞の3名は、2018年6月22~24日に行われるJIA全国学生卒業設計コンクールへ推薦、及び入賞者に対し総会時に賞状の贈呈を行います。

教育委員会活動報告

■北のジュニア・オープンデスク（教育委員会）

8月1日～8月7日：オープンデスク開催

参加者：北海道釧路工業高等学校 山中 夢果さん（1年）→ くりえいと創

参加者：北海道釧路工業高等学校 松岡 汐音さん（1年）→ くりえいと創

参加者：北海道釧路工業高等学校 橋本 圭斗さん（1年）→ くりえいと創

参加者：北海道釧路工業高等学校 空 海斗さん（1年）→ くりえいと創

参加者：北海道釧路工業高等学校 大日向幸花さん（1年）→ くりえいと創

8月7日 見学会・交歓会

見学場所：創世1.1.1区北1西1地区新築工事

交歓会：共同企業体現場事務所の会議室

参加者：山中さん、橋本さん、上野 浩平先生、北海道教育庁 諸橋 宏明主幹、

J V所長 金田亮太郎氏、J V主任 谷口悠美子氏、北海道建設業協会 今城 昇氏

札幌工振興会事務局長 豊山 孝雄氏、北海道建設新聞社 佐々木 潤氏、

J I A 遠藤 謙一良支部長、小杉 朋希副支部長、十河 昌司

■平成29年度高校生建築デザインコンクール（事務局 北海道建設部建築局計画管理課）

- ・設計課題 北海道子どもの国公園水景（噴水）施設の利用者休憩所としての四阿
- ・建設地 砂川市「北海道子どもの国公園」内（ハイウェイオアシス側（西側））
- ・敷地面積 2,550m²程度 ・構造・規模 鉄骨造 平屋建て
- ・延床面積 24m²以上30m²以下 ・最高高さ5.0mを上限
- ・提出様式 J I S規格A-2版横置き一枚片面、縮尺1/50～1/300
作品タイトル、設計主旨、配置図、平面図、立面図・断面図、スケッチ、面積表を明示

運営スケジュールは以下のとおり

平成29年6月上旬	工業高等学校へ募集要項送付
平成29年6月5日～6月16日	募集要項に対する質疑受付
平成29年6月21日	募集要項に対する質疑回答
平成29年8月21日～8月31日	作品受付
平成29年9月7日	選定委員会 入選作品の審査、選定
平成29年9月下旬	関係機関への選定結果通知
平成29年11月中旬	表彰式
平成29年11月下旬	作品集印刷製本
平成29年12月上旬	入賞者へ症状及び受賞記念品贈呈 実施運営委員会 事業費決算報告
平成30年1月11日～12日	作品展（道庁ロビー・道政広報コーナー）

（報告 十河 昌司）

全国会議委員 笹栗 達夫
委員長 遠藤 謙一良

北海道の「北海道震災建築物応急危険度判定連絡協議会」の対応と J I A 災害対策委員会の支部窓口の委員会からスタートしました。

阪神・淡路大震災や新潟県中越地震などの震災が多く被害をもたらし、多くの貴重な教訓を残しました、被災建築物による二次的被害を防止・軽減するための「応急危険度判定」が重要とされ、平成7年度以降、震災建築物応急危険度判定士の認定・登録や全国の判定協議会と連携が行われ、北海道でも各支庁の協議会や建築関連団体が協力して相互支援の連絡協議会の早期の設立が求められ「北海道震災建築物応急危険度判定連絡協議会」は2006年2月より活動をはじめています。

また、2013年12月からは J I A 本部災害対策委員会と連携することとなり北海道支部の災害対策委員として北海道支部も参加しており、J I A 全体としての災害時の支援活動の枠の中に位置づけられるようになり、2014年度から新たな北海道支部の災害対策委員会が立ち上げられました。

災害対策委員会は災害時のネットワークとしてワンストップな機能が求められることから **支部4役**、正副委員長、各地区の代表となっており、総勢34名となっています。

15年度からは組織改編（全国会議化）がなされております。

■ 18年度活動報告

- 3月27日、6月5日、7月11日
災害対策全国会議 WEB 会議参加（笹栗）

—— 選挙管理委員会 ——

委員長 平尾 稔幸

2017年度支部役員の任期満了に伴う支部幹事及び監査役の改選選挙を実施しました。支部幹事のうち11名、支部監査のうち1名が改選となり、その後の支部総会で選任されることとなります。3月5日に第一回告示を行い3月15日に届出を締切りましたが、期日までに届出があり定員に達しませんでした。3月16日に改めて第二回告示を行い、締切り期日までにそれぞれ定数の立候補届け出があり受理しました。

資格審査の結果、支部選挙規定に全員適合しておりましたので次期幹事及び次期監査として当選人に決定いたしました。

2017年度 活動報告

■JIA アルカジア委員会全国会議（web 会議）

2017年8月1日17:30から、各支部のアルカジア委員長と本部のアルカジア大会実行特別委員が出席し実施された。

2018年9月10日～14日に開催される「アジア建築評議会 アルカジア東京大会 ACA18TOKYO」について、現状で決まっている開催内容等の説明を受けた。各支部の委員には、①広報活動の補助と②支部からの大会参加者の促進という大きく二つの役割をお願いしたい旨の話を受けた。広報活動のひとつとして、ACA18TOKYOのFACEBOOKページを立ち上げているので、各支部から順次掲載ネタを提供してほしいとの依頼を受けた。

■ACA18TOKYO FACEBOOK ページへの北海道情報の提供

FACEBOOKにて連続掲載された「北海道建築発見の旅」と称した記事に写真及び説明文を提供。札幌編については菅沼が対応し、函館編、旭川編、道東編については、各地区会委員長に情報提供をお願いした。東北支部に続いて素早い対応をしたことで、本部実行委員会からも感謝の言葉を頂いた。

■JIA 全国大会での全国会議

2017年9月29日18:00から、四国徳島でのJIA全国大会にて、各支部アルカジア委員長と本部アルカジア大会実行委員会とが出席し全国会議が実施された。高階実行委員長からは、現在までに決定している開催内容や事業計画について説明があった。北海道支部菅沼からは、スケジュールジャンボリーに各支部からも学生を派遣する場合は、旅費手当て等支部予算内の検討が必要なため、早めに方針を決定いただきたい旨を申し入れした。その後、レセプションパーティー内でアルカジア東京大会告示のコーナーがあり、各支部の全国委員と共に菅沼も登壇した。